

# 花橋

太宰のポエム

教務課長 羽田 智紀

発行日

令和6年6月25日

第4号

発行・編集

三崎高校総務課

LINEやTwitterやInstagramやYouTubeも無かった時代の話。

これまでの人生を振り返ると高校時代が最も苦しかった。思春期特有のやり場のない怒りや悲しみを吐き出す場所はどこにもなくて、高校生になっても日記を書いた。太宰治を扱う授業があり、感受性が強く人間不信、情緒不安定でだらしない太宰治に惹かれ、嬉々として授業を受けた。すると一度も話をしたこともない女子二人組から「羽田君ってこっち側やろ？」と、唐突に話しかけられ、日時と場所だけが書かれたメモを渡された。指定された場所に行くと「ポエム（詩）クラブに入ってほしい」と懇願された。理由を聞くと、学校では明るく振舞っているが、時折見せる表情や言葉から、無理して自分を装っていることが伝わってきたから、だという。時折集まって各々が創作したポエムを見せ合い、批評しあった。メンバーはたった3人だけ。この秘密結社のような集まりの存在を知る者など校内に誰一人いない。ポエムネームなるものが存在し、私は「リトルウイング」と名乗り、メンバーからは「リトル」と呼ばれていた。

ポエムクラブの活動が軌道に乗り、メンバー同士でお題を出し合うようになった。「雨」というお題に対し、納得いくポエムが書けた。早くメンバーと共有したい。そう思ってカバンから取り出そうとしたら…えっ…ない……落とした。最悪。頭、真っ白。ポエムをどこに落としたのか記憶をたどるが思い出せない。すると昼休みに校内放送が鳴った。「リトルウイングと書かれた詩の落とし物がありました。心当たりのある生徒は職員室まで」親切心から「リトルウイング」という名前を出したのだから見ないが、教室内に失笑がおこり「誰なん、詩とか書いてるやつ（笑）面白いから職員室見に行こうぜ」と騒ぎ出した。メンバーが集まり緊急会議。「リトル、行っちゃダメ」二人はそう言ってきた。「自分たちの創作活動は閉じた世界だからこそ意味も価値もある」と力説されたが、後ろめたいことなど何一つない。ポエムを通じて自分を表現できたし、二人の前では自分らしくいられた。二人に感謝と敬意を伝え、職員室に向かった。「リトル、頑張つて！」背中越しに声が聞こえた。

職員室付近は「リトルウイング」見たさに野次馬が集まってきていた。心臓の高鳴りが聞こえてくる。怖い。怖い。怖い。ただ何故かこの瞬間逃げちゃいけない気がして意を決して職員室の扉を開けた。その扉は新しい世界に繋がっていた。

自分自身が今、高校生だったならSNSとどう向き合っているか時々考える。思い出補正をかけて不便だったあの時代を美化したいわけじゃない。こんな時代だからこそ「自分の言葉」を大切にしていきたいと思う。マグマのような感情、ジェットコースターのような日常を言葉にして自分自身と向き合っていきたい。

ポエムクラブへの入会をお待ちしています。みさこう生のみんなへ。リトルより。

## 愛媛県高等学校総合体育大会

6月1日から開催された県総体に、男子バレーボール部、男女卓球部、テニス部が出場し、各会場で、熱戦を繰り広げました。3年生にとっては最後の大会でした。3年生の最後まで粘り強く、自分のベストを尽くして戦い抜いた姿は、これからも後輩達の良い目標となってくれると思います。引退後は進路実現に向けた戦いが始まります。部活動を通して学んだことを今後の学校生活にも生かし、より一層頑張ってください。1・2年生は引退する先輩達の力強い姿を忘れず、良き伝統を引き継いでいってください。本当にお疲れさまでした。素晴らしい感動をありがとう！

